自治体名：北海道利尻富士町

自動運転社会実装推進事業

最終報告書（公開版）

**【事業背景・目的】**

少子高齢化や人口減少が進む中、バス等の公共交通運転手の高齢化や人手不足が深刻化しており、地域公共交通の維持が難しくなることが予想されています。当町においても喫緊の課題となっているため、自動運転レベル4相当の運行を目指した自動運転技術の立証や社会受容性向上を目的とした実証実験を実施し、将来的な自動運転バスの社会実装に向けた検討を行います。

**【事業内容】**

車両: NAVYA ARMA

ルート: 鴛泊港-利尻空港

期間: 9月24日～10月3日

**【検証項目・検証方法】**

※経営面・技術面・社会受容性面の主要な検証項目について、検証方法を記入してください

※1ページ目に収まる範囲であれば、列の追加・消去は可能です

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 検証項目 | 検証方法 |
| 経営面 | 乗車人数 | オペレーターによる集計 |
| 実証実験期間中の視察の対応件数 | 視察団体をオペレーター/プロジェクトマネージャーで集計 |
| 技術面 | 自動運転比率 | 運行管理ソフトにて実施 |
| 社会受容性面 | 乗車満足度 | 乗車アンケートにて実施 |

**【検証・分析結果】**

■経営面

【乗車人数について】  
乗車人数は320人となり、平均は32人/日となった。  
  
【再乗車意向について】  
アンケートでは「乗りたい」と答えた人が66％、「やや乗りたい」が29％と、合わせて約95％が再度の利用に前向きでした。これは自動運転バスに対する高い関心や肯定的な評価を示していた。

【収入について】  
本年度は無償運行のため収益はなし。

運賃以降アンケートでは「100円」が25％、「200円」が38％を占め、多くの回答者は150～200円程度を望んでいた。これは通常のバス運賃（一般的には220円前後）よりもやや低い金額であった。また、一部には「距離に応じて運賃を変動させるべき」という意見もあり、柔軟な料金設定を求める声が見られた

■技術面

【自動運転率/手動介入について】  
・自動運転率  
9月24日〜10月3日の運行期間中、自動運転比率は97.8%となった。手動介入は全体の2.2%にとどまり、その大半は充電場所や車両輸送場所への回送、または対向車線への侵入を避けるための路上駐車回避措置として実施された。なお、この自動運転比率は、BOLDLY株式会社のNAVYA ARMA通年運行地域と比較しても高水準である。  
  
・手動介入

① 対面通行路における青信号通過時の手動介入

② 商店前の積み下ろしに伴う路上駐車回避

③ 青信号左折に伴う手動介入

①および③については車両変更に伴い比較的容易に改善される手動介入ポイントとなるが、

②においては短期実証では周知しきれなかった荷下ろし車両への通過時間帯での荷下ろしを避けてもらう要請などを着実に行い、フェリー到着後の1時間付近などの物流混雑時間帯を避けることで改善していく必要性があると考えられる。

■社会受容性面

【乗車満足度】  
乗車満足度目標：80%としていたが、96.1%を超え、非常に高い満足度が得られる結果となった。  
  
【利用機会創出/DX関連について】  
・利用機会創出  
町の広報誌/SNSなどで広く周知を行いながら関係地域の自治会と協議を行い、自動運転走行に関するチラシを住民に配って認知拡大を図る。必要に応じて住民説明会の実施した。  
  
・DX関連について  
DXの一環としてBOLDLY株式会社提供の遠隔監視サービスであるDispatcherよりAPI連携を受けた位置情報サービス並びに運行ダイヤ、運行状況をLINEのミニアプリでダイヤとともに配信した。